



# 高野山・大徳院札③

鳳凰山 神野良英

## ●大坂御用所札

万延元（一八六〇）年

## ●多印札

万延元（一八六〇）年

今回③は万延元年に発行された二タイプを取り上げさせていただきます。

いずれも現存の少ないものですが、様々な引請印が見られ、専門収集にも熱の入るところではないでしょうか。

ここ（入門）では版木の違いを分けるに留めます（ブレずに……）が、今回のタイプに限ってはむしろ引請印違いを集めることが一般的で、版木の違い（極めて細かい……）に目を向ける方が新鮮に思えるかもしれません。

「寺社札入門」流の分類をご堪能ください。

## 大坂御用所札

表面の四つの印影以外に全く図柄のないこと

から、俗に「大坂白札」（一部に着色札もありますが……）とも呼ばれ、銀壹匁、銀五分、銀三分、銀式分の四額面（明治期の改印銭札は除外）が知られています。

表面の四印のうち、中央左の割印に「濃」印（版木／押印）と「不明（篆書）印（版木のみ）の三手があります。

また、右上の「南山壽」印や中央の丸印（判読不明）にも版木と押印がありますが、これらは非常に細かな違い（単品での判断はほぼ不可能、複数枚を見比べての判断）となるため、今回は大きく目立つもののみを分けてみます。

裏面は「高野山大徳院御貸附役所」の左側が「無地」のもの、「大坂（※）日本橋二丁目御用所改」、「大坂日本橋二丁目用所改」と入るものの三種があり、表裏の組み合わせには一定のパターンがあるようです。

※壹匁札は「大坂」表記ですが、小額札は「大坂」表記となっています。

A 「濃」割印（版木）裏「無地」

・銀壹匁【200】①

・銀五分【200】②

B 「濃」割印（押印）裏「無地」

・銀壹匁【200】③

このタイプには複数の版木があるようです。

C 「濃」割印（押印）裏「用所改」

・銀壹匁【200】④

「濃」割印のタイプで、唯一「文言入り」（大坂日本橋二丁目用所改）のものです。

D 「不明」割印裏「御用所改」

・銀壹匁【200】⑤

・銀五分【200】⑥

・銀三分【150】⑦

・銀三分（赤）【400】⑧

・銀式分【200】⑨

・銀式分（灰）【350】⑩

このタイプにのみ、三分札と貳分札（それぞれ色違いもあり）が存在します。

なお、沓笏札と五分札に「改百文」という改定印の押されたものを見えますが、元札の額面に関係なく押されたもののように（他のタイプにもあるのでは……）、今回は割愛させていただきます。

#### E 「不明」割印裏「御用所改」中央印なし

・銀沓笏【350】<sup>⑪</sup>

中央の丸印のないもので、前掲札（D）の単なる押し忘れ（表裏のパターンが同じ）と思われるかもしれませんが、版木自体も異なっているようです（「不明」割印の位置等で判断）。

このような細かな版木違いは「濃」割印のタイプ（B）にも見られ、ここ（入門）では割愛させていただきます。中央印の有無ともなるとさすがに目立つものでもあり、取り上げてみました。

#### F 「不明」割印裏「無地」中央印なし

「近江吉兵衛」

・銀沓笏【380】<sup>⑫</sup>

表面左端に「大坂御用達 近江吉兵衛」の追加

（版木に嵌め込み）されたものです。

こちらも中央の丸印のないものですが、表裏のパターンが独特で、元からの仕様（押し忘れではない？）なのかもしれません（複数確認）。

ちなみに、近江吉兵衛は文久三年発行の「近江屋吉兵衛札」の札元にもなっています。

### 多印札

こちらも「大坂御用所札」と同様、四つの印影が意匠として版木に組み込まれ（上部割印と「濃」割印の二印だけのものもあります）、さらには流通の過程で様々な印が加わるため、「多印札」と命名（ちよつと苦しい……）してみました。

額面は銀沓笏、銀三分、銀貳分、銀壹分の四種（三分札に「十二文」という小印の押されたものもありますが、今回は割愛させていただきます）があり、紙質に厚薄の二手があります。

#### ○四印札

・銀沓笏【150／薄100】<sup>⑬</sup>

・銀三分【200／薄150】<sup>⑭</sup>

・銀貳分【薄150】<sup>⑮</sup>

・銀壹分（灰）【500】<sup>⑯</sup>

沓分札には発行年の表記がありません。

#### ○二印札

・銀沓笏【薄200】<sup>⑰</sup>

・銀三分【薄250】<sup>⑱</sup>

こちらは右上の「南山壽」印（事業の永続を願う文言）と中央の丸印のないものです。

#### ー加印の参考例ー

・加印なし【200】<sup>⑲</sup>

・加印（二個）【150】<sup>⑳</sup>

「四印札」の沓笏札を二枚ご紹介させていただきますが、押された印（加印数）によって雰囲気ガラッと変わることがお分かりいただけると思います。

【一】内の数字はごく一般的なものの参考価格（単位一〇〇円前後）です。

札色は特記なき限り「白」となり、「赤」としたものは桃く茶色に見えるものを含みます。

今回も確認札のみの記載とさせていただきます。